平成25年	F度事務事業評	該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)
事務	§事業名	(上屋)一般管理事業
予	算科目	1款 1項 1目
総合計画	での位置付け	都市基盤の整備 道路·交通基盤の整備
	京課情報	担当課: 道路河川課 電話番号(内線): 982-1111(578)
	者情報	所属長: 上坂 博一 担当責任者: 小笠原 幸男
	美の性格 おんしょう	法定事務
	<u>施期間</u>	【開始年度】 平成 17 年度 【開始年度】設定なし
事業	美の対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上屋使用者
根拠法令等	伊予市港湾施設管理组	条例
事業の目的	市営上屋の使用につい	いて適正かつ効率的に行う。
事業の内容	3ヶ月毎に上屋の使りた使用料により随時、	用許可申請を受付け、許可書、納付書を発送する。上屋の維持修繕においては、徴収し 修繕を施す。
改善策の 具体的 取り組み (当初)	施設の現状を把握する	るとともに施設存続の必要性、活用方策等について、検討を進める。
改善策の 具体的 取り組み		

		事業費	と 及び財源内訳		
J	頁 目	24年度決算	25年度予算	9月末の執行状況	25年度決算
	直接事業費	10,685	10,175	376	9,964
事業費	人件費	3,199	3,254	1,627	3,254
	合計	0	13,429	2,003	13,218
	人工数	0.40	0.40	0.20	0.40
人件費	人件費単価	7,999	8,135	8,135	8,135
内訳	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	3,199	3,254	1,627	3,254
	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
財源内訳	地方債	0	0	0	0
	その他	11,591	10,145	4,422	10,146
	一般財源	2,293	3,284	-2,419	3,072

	事業活	動の実績(活動	协指標)		
項目	単位	24年度実績	25年度予定	9月末の実績	25年度実績
上屋利用率	%	100	100	100	100

		向こう5年	間の直接事業	費の推移		
午庄	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	5年間の実績
年度	10,100	10,100	10,100	10,100	10,100	50,500

		成果指標		
成果指標	利用率(%)=上屋全体利	用件数÷上屋部屋数(12部原	屋数)	
指標設定の 考え方	利用率が100%に近づくほ。 	ど、使用料の増収となり、施	役の有効利用が図られる 。	
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	100%	100%	0	0
実績	100%	100%	0	0

		自己評価		
		目的の妥当性	3	
	妥当性	市民ニーズへの対応	2	С
		市の関与の妥当性	3	
自己評価		事業の効果	3	
(担当責任者)	有効性	成果向上の可能性	4	В
()三马良江省/		施策への貢献度	4	
		手段の最適性	4	
	効率性	コスト効率	4	В
		受益者負担の適正	4	
課題認識		Eした突風による施設損壊事故を教訓として、施設の長妻 画的に施設改修を進める必要がある。	투命化に向け、	施設使用料

		一次評価			
		目的の妥当性	3		
	妥当性	市民ニーズへの対応	2	С	
		市の関与の妥当性	3		
一次評価		事業の効果	3		
(所属長)	有効性	成果向上の可能性	4	В	
(別為文)			施策への貢献度	4	
		手段の最適性	4		
	効率性	コスト効率	4	В	
		受益者負担の適正	4		
	60.싀ᆞᄉᄱᅩᄀᄼ	はたた000エロガダマ世段し、タンケキでは1000エロ	40 広もり し	1.1 +.185	

一般会計への繰入金は毎年800万円前後で推移し、多い年度では1220万円程度ある。 しかしながら、施設の老朽化が著しく、今後は施設の修繕費用がかさんでくるが、施設の新築には多額の費用がかかる上、船舶を利用しての上屋使用は今後も上昇することは考えられない。よって、最低限の維持修繕により現状維持をする。

課題認識

	二次評価
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

	行政評価委員会の答申
外部評価 (行政評価委員会)	

	経営者会議の最終判断
事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	